

賞名	選者	受賞句	所在地	受賞者
選者特選賞 (14句)	久保純夫	韓人と歩む砂丘や雁渡し	鳥取県	坂出 徹
	後藤章	砂の軋み義足の軋み秋砂丘	神奈川県	杉山 美代子
	岡田耕治	風紋は上書きされて天高し	兵庫県	竹田 むべ
	坂本宮尾	月面踏むごと朝寒の砂丘踏む	鳥取県	坂出 徹
	佐藤夫雨子	天高し砂丘確かに生きている	鳥取県	吉村 美春
	本郷桂子	風神の暴るる砂丘秋深し	岐阜県	大堀 武直
	田中静龍	オアシスに息づく砂丘草紅葉	鳥取県	長安 節子
	棕誠一朗	朝寒や砂丘は呼吸してをりぬ	鳥取県	宮脇 典子
	植垣規雄	馬の背を越えて大海翳雲	鳥取県	中野 隆司
	岡みずき	冷まじき砂丘に会釈残しけり	静岡市	杉田 和子
	堀江典子	風紋を砂丘に遣し神渡	鳥取県	田中 英也
	石山ヨシエ	足元に風立つ砂丘新松子	鳥取県	西村 ゆうき
	高田栄子	遥かなる砂丘を渡る風は秋	兵庫県	稲谷 有記
	山口博	秋寂ぶや怒涛打ち寄す大砂丘	鳥取県	吉浦 増
正賞 (14句)	久保純夫	秋雨を含み砂丘の無音かな	鳥取県	高田 しげ子
	後藤章	遠きほど海は晴れ来て鳥渡る	鳥取県	鍛冶屋 都
	岡田耕治	秋天の砂丘をつかみ這ひ上がる	鳥取県	西村 ゆうき
	坂本宮尾	身に入むや砂丘の砂に頬打たれ	岐阜県	誠司
	佐藤夫雨子	文学の舞台の砂丘秋の声	鳥取県	五百川 知子
	本郷桂子	翳雲砂丘は今日も生きてをり	鳥取県	長石 彰
	田中静龍	風紋を砂丘に遣し神渡	鳥取県	田中 英也
	棕誠一朗	砂丘ゆく足裏にひびく秋の声	鳥取県	芳尾 公仁子
	植垣規雄	秋天を飛行機雲のはんぶんこ	鳥取県	棕 麻里子
	岡みずき	晩秋の吟遊靴底に白砂	鳥取県	足立 六歩
	堀江典子	月面踏むごと朝寒の砂丘踏む	鳥取県	坂出 徹
	石山ヨシエ	韓人と歩む砂丘や雁渡し	鳥取県	坂出 徹
	高田栄子	行く秋の砂丘に億の日のかけら	静岡県	間島 あきら
	山口博	行く秋の砂丘に億の日のかけら	静岡県	間島 あきら
准賞 (14句)	久保純夫	秋風や砂のかたちのみな未完	鳥取県	長曾 宏隆
	後藤章	韓人と歩む砂丘や雁渡し	鳥取県	坂出 徹
	岡田耕治	砂の軋み義足の軋み秋砂丘	神奈川県	杉山 美代子
	坂本宮尾	秋風や砂のかたちのみな未完	鳥取県	長曾 宏隆
	佐藤夫雨子	秋晴や卒寿の二人砂丘ゆく	鳥取県	佐々木 恵子
	本郷桂子	風紋は風の言語や秋深し	鳥取県	平山 淑子
	田中静龍	飛砂しきりシベリアの風冬近し	鳥取県	浅田 理恵子
	棕誠一朗	遥かなる砂丘を渡る風は秋	兵庫県	稲谷 有記
	植垣規雄	行く秋の砂丘に億の日のかけら	静岡県	間島 あきら
	岡みずき	かりそめの砂漠の月をえがきけり	鳥取県	長田 遼平
	堀江典子	辣蕪の花に砂塵の飛びやまず	鳥取県	景山 みどり
	石山ヨシエ	行く秋の砂丘に億の日のかけら	静岡県	間島 あきら
	高田栄子	潮騒や地を這ふ丈の月見草	鳥取県	中田 循子
	山口博	見はるかす無音の砂丘秋の雲	鳥取県	高田 愛子

入選 (98句)	久保純夫	花芒ねんりんぴっく飾りけり	鳥取県	友田 登喜子
		身に入むや「砂の女」の聲がする	岐阜県	大堀 武直
		背負籠の紐は空色栗拾ふ	鳥取県	高田 愛子
		冷まじき砂丘に会釈残しけり	静岡市	杉田 和子
		秋日和彼の笑顔とバジルティー	鳥取県	竹内 明希美
		流星や風が織りゆく砂の音	鳥取県	足立 六歩
		セグウェイの轍砂丘の行秋に	鳥取県	尾田 美智子
	後藤章	吹きすさぶ砂丘や秋茱萸のしづか	鳥取県	松田 蕾子
		足元に風立つ砂丘新松子	鳥取県	西村 ゆうき
		身に入むや砂丘の砂に頬打たれ	岐阜県	誠司
		秋雨を含み砂丘の無音かな	鳥取県	高田 しげ子
		砂飛んで馬の背けづる秋砂丘	鳥取県	安藤 邦子
		あきぐみを啄んでゐる鳥の群	鳥取県	小泉 河南子
		風紋は上書きされて天高し	兵庫県	竹田 むべ
	岡田耕治	かりそめの砂漠の月をえがきけり	鳥取県	長田 遼平
		身に入むや「砂の女」の聲がする	岐阜県	大堀 武直
		砂に足とられて秋の深まりぬ	兵庫県	稲谷 有記
		秋霜を含む砂丘の硬さかな	鳥取県	川上 十子
		砂丘ゆく足裏にひびく秋の声	鳥取県	芳尾 公仁子
		行く秋の砂丘に億の日のかけら	静岡県	間島 あきら
		背負籠の紐は空色栗拾ふ	鳥取県	高田 愛子
	坂本宮尾	辣萋の花に砂塵の飛びやまず	鳥取県	景山 みどり
		オアシスに息づく砂丘草紅葉	鳥取県	長安 節子
		深秋の砂丘に重ね旅衣	鳥取県	宮脇 典子
		風紋を砂丘に遣し神渡	鳥取県	田中 英也
		風紋や色なき風の置き土産	鳥取県	太田 久美子
		山の子ら今日は砂丘の秋の風	鳥取県	佐々木 恵子
		点になり大砂丘行く秋日和	鳥取県	平田 美穂
	佐藤夫雨子	新酒酌むおらが国より総理出	鳥取県	前田 一朗
		砂丘広し海なほ広し翳雲	鳥取県	安藤 邦子
		砂に足とられて秋の深まりぬ	兵庫県	稲谷 有記
		老いの身を寄せ合ふ二人草の花	鳥取県	中野 隆司
		売店に梨籠並べ大砂丘	鳥取県	長石 彰
		秋風や虚子の句碑より声聞こゆ	鳥取県	有本 泉水
		秋空に小さな我と大砂丘	鳥取県	白岩 恒子
	本郷桂子	秋入日海はすとんと夜に入る	鳥取県	福本 國愛
		遥かなる砂丘を渡る風は秋	兵庫県	稲谷 有記
		流星や風が織りゆく砂の音	鳥取県	足立 六歩
		秋寂ぶや怒涛打ち寄す大砂丘	鳥根県	吉浦 増
		海風にねぢれる砂丘秋寒し	鳥取県	長曾 宏隆
		遠きほど海は晴れ来て鳥渡る	鳥取県	鍛冶屋 都
		雨上がる砂丘はもとの秋の空	鳥取県	坂岡 敏延
	田中静龍	足元に風立つ砂丘新松子	鳥取県	西村 ゆうき
		園児らが砂を駆け下る秋日和	鳥取県	木下 直子
		秋寂ぶや怒涛打ち寄す大砂丘	鳥根県	吉浦 増
		砂丘行く足跡均す秋の風	鳥取県	太田 久美子
		馬の背を前に感声秋深し	鳥取県	神谷 正恵
		海風にねぢれる砂丘秋寒し	鳥取県	長曾 宏隆
		秋時雨染み込み砂丘引き締まる	鳥取県	定久 静子

棕誠一朗	潮騒のあしたの砂丘冬近し	鳥取県	房安 栄子
	秋風や虚子の句碑より声聞こゆ	鳥取県	有本 泉水
	悠久の砂丘を抱く風は秋	鳥取県	河本 充弘
	風神の暴るる砂丘秋探し	岐阜県	大堀 武直
	古砂丘の埋もれし砂丘秋の空	鳥取県	五百川 知子
	秋風や風紋の襲崩し行く	鳥取県	圓山 淳子
	秋の雲砂丘の空に流れゆく	鳥取県	福田 代志子
植垣規雄	鳥渡るくの字くの字を正しつつ	鳥取県	井上 登志枝
	秋風や砂のかたちのみな未完	鳥取県	長曾 宏隆
	柔らかに踵を埋める砂丘秋	鳥取県	滝本 勤
	子等は駆け十色の砂丘秋深し	鳥取県	溝部 栄子
	流星や風が織りゆく砂の音	鳥取県	足立 六歩
	馬の背の砂踏みしめて秋惜む	鳥取県	河本 充弘
	深秋の砂丘に残す卒寿の歩	鳥取県	足羽 鮮牛
岡みずき	風紋の崩れやすさも雁の頃	鳥取県	景山 みどり
	行く秋の砂丘に億の日のかけら	静岡県	間島 あきら
	秋風や砂のかたちのみな未完	鳥取県	長曾 宏隆
	風神の暴るる砂丘秋深し	岐阜県	大堀 武直
	足元に風立つ砂丘新松子	鳥取県	西村 ゆうき
	秋風に舞う砂の粒楽しそう	鳥取県	元録 颯志
	遠きほど海は晴れ来て鳥渡る	鳥取県	鍛冶屋 都
堀江典子	海越えて砂丘を越えて鳥渡る	鳥取県	井上 登志枝
	砂丘広し海なほ広し翳雲	鳥取県	安藤 邦子
	風紋や色なき風の置き土産	鳥取県	太田 久美子
	オアシスに息づく砂丘草紅葉	鳥取県	長安 節子
	我もまたやがて素粒子星月夜	鳥取県	箕輪 雅晴
	悠久の砂丘を抱く風は秋	鳥取県	河本 充弘
	秋時雨染み込み砂丘引き締まる	鳥取県	定久 静子
石山ヨシエ	身に入むや砂丘の砂に頬打たれ	岐阜県	誠司
	砂丘広し海なほ広し翳雲	鳥取県	安藤 邦子
	砂丘に鳥人となる秋の空	鳥取県	中嶋 武士
	あきぐみを啄んでゐる鳥の群	鳥取県	小泉 河南子
	秋日落つ砂丘と海と吾一人	鳥取県	市原 正恵
	秋風や砂にまかせて一歩ずつ	鳥取県	神谷 正恵
	風紋に小さき足跡天高し	鳥取県	平山 淑子
高田栄子	秋入日海はすとんと夜に入る	鳥取県	福本 國愛
	馬の背の砂踏みしめて秋惜む	鳥取県	河本 充弘
	秋風や砂にまかせて一歩ずつ	鳥取県	神谷 正恵
	流星や風が織りゆく砂の音	鳥取県	足立 六歩
	砂丘広し海なほ広し翳雲	鳥取県	安藤 邦子
	砂丘ゆく足裏にひびく秋の声	鳥取県	芳尾 公仁子
	砂丘行く足跡均す秋の風	鳥取県	太田 久美子
山口博	鳥渡るくの字くの字を正しつつ	鳥取県	井上 登志枝
	松籟や露けし砂丘の招魂社	鳥取県	太田 淳子
	オアシスに息づく砂丘草紅葉	鳥取県	長安 節子
	一条の秋日嵐に踏む砂に	鳥取県	長田 遼平
	冬濤が巨大ゼブラを描く砂丘	鳥取県	足羽 敬子
	砂丘喰む白き潮先秋の朝	広島市	前田 節
	野分立つ天地の境なき砂丘	鳥取県	井田 みさ子